



エビはなぜ何回もだっ皮するの

エビは体の外側に骨がある

エビやカニは、体の中に骨を持っていません。体の外側にある、かたい殻が骨のかわりをして、体を支えています。カブトムシなどをはじめとした昆虫も、体の中には骨がなく、体の表面がかたい殻のようなものでおおわれていて、体全体を支えています。

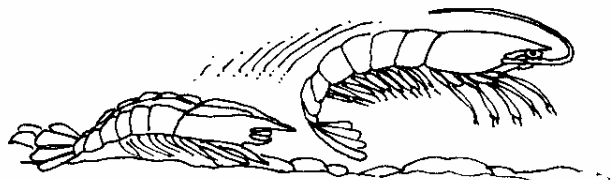
体内に骨がある動物は、骨が成長する

人間やイヌや、魚など、体の中に背骨をもっている動物は、骨が体を支えています。そして、赤ちゃんから大人になるまで、成長するにつれて、骨も、骨についている筋肉も成長し、体が大きくなっていきます。

殻があると大きくなれない

ところが、エビや昆虫のように、体の外側をかたい殻でおおわれていると、殻が邪魔になって、体が大きくなれません。そのため、エビや昆虫は、だっ皮して、ひとまわり大きい体になります。いちどに、もとの殻の中に入らないほど大きい体にはなれませんから、何回もだっ皮をくり返して、だんだん成長していくのです。

だっ皮したばかりの体はやわらかく、敵におそわれたらどうしようもありませんが、時間がたつにつれて、がっちりした殻になっていきます（監修・安部 義孝）



だっ皮は、きゅうくつになった服をとりかえるのと同じ

